

広告

緑鮮やかな旬の野菜 石狩のサヤエンドウ

夏本番を迎え、たくさんの海水浴客でにぎわう石狩市。畑では、陽の光をたっぷり浴びて育ったサヤエンドウ(キヌサヤ)の収穫がピークを迎えています。

現在、石狩のサヤエンドウ農家は18戸。収穫量は下川町、上ノ国町に次いで道内3位を誇ります。「石狩で栽培がスタートしたのは今から30年ほど前のこと。道内の産地の中では歴史が古く、市場でも老舗ブランドとして高い評価を受けています」とはJAいしかり青果課課長の佐々木淳さん。「今年のサヤエンドウは発育が順調で、昨年より10日も早く収穫が始まっています」。

サヤエンドウ部会の会長を務める村上洋一さんの畑でも、150～160cmの背丈に成長したつるにたくさんのサヤエンドウが実り、かすかな風に揺られています。「栽培しているのは『電光30日』という品種。名前の通り、1株で30日間、次々と実をつけるので、毎日収穫に追われています」と村上さん。

新鮮なサヤエンドウは、そのままゆでてマヨネーズで食べるのももちろん、卵とじやみそ汁の具にしても最高!「旬ならではの鮮やかな色と、シャキシャキとした食感を楽しんでもらいたいですね」



◀ サヤエンドウの花。発芽後、30日ほどで咲く真っ白な花が種子となり、サヤエンドウとして育っていきます。



▶ 収穫したサヤエンドウは市場へ出荷後、他地域のものと一緒に道内産としてスーパーなどで販売されています。



▼ 村上さんの畑では、1haのスペースでサヤエンドウを栽培。種を5～6回に分けてまき、収穫時期を調整しています。



絹莢豌豆 きぬさやえんどう

◆ 今月号は絹莢(へきぬさや)のこととして、市広報紙編集者よりお達しがあり、さて困ったことになった。へ絹莢の何を知りたる己かなと気取ったところで誰も助けてはくれない。以前より、さやを食すか豆を食すのかは気にはなっていた。この際調べてみると、絹莢はむき実用でなくさや用種に属するようだ。◆ 石狩における生産期で最も暑い8月の平均気温は昨年24.1度。25度を超えると育成が難しいこの種は、夏にあつては北海道のシエアが圧倒的、中でも石狩ブランドは高値を付ける。只、やっかいなことに収穫は人の手でひとつひとつをもぎ取るしかない。過疎地域には不向きとなるのもうなずける。◆ この摘み取りもプロの技。北海道のシンクタンクは、農業も都市通勤が必要となることを予測しているが、機械の投入できる作物ではない。故に高値を付ける。涼涼な環境は、農薬量も圧倒的に少なくエコ野菜でもある。この温度環境を利用した北海道戦略は次第に具体化している。その先陣が絹莢なのだ。

(市長)